教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 教育学科　　資格： 准教授　　氏名： 大和　晴行

研究分野	研究内容のキーワード
保育学，幼児教育学，乳幼児健康学	乳幼児期の健康，手指の器用さ，姿勢の発達，体力・運動能力，基本的生活習慣，生活技術，乳児保育
学位	**最終学歴**
修士（学校教育学），学士（学校教育学）	兵庫教育大学大学院　学校教育研究科　学校教育専攻(幼年教育コース) 修士課程　修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.子ども理解、現場理解を深めるための見学実習の実施	2015年～現在に至る	「保育実習指導IA」において、実習本番前に実際の保育の流れ、子どもの発達について理解を深められるよう、附属保育園と連携し、見学実習を実施している。0～6歳全年齢の保育を見学すると共に、適宜、保育園長及び教員が解説を行い、学生の理解を深めると共に、学生の主体的学びにもなるよう見学後は保育園長との質疑応答の時間も設け、実習時における職員への質疑の事前経験にもなっている。
2.評価用ルーブリックを用いた手遊び・絵本読み聞かせ模擬保育の実施	2015年～現在に至る	「保育実習指導IA」において，実習前に一定水準の保育技術を習得することを目指し，手遊び・絵本の読み聞かせ模擬保育を実施している。その際，「表情」「動作」「声」「遊びの展開」「習得度及びアレンジ」の5領域を設定し，いずれも3段階で評価できるルーブリックを作成した。学生は自身の模擬保育の様子を動画視聴しながらルーブリックを活用した自己評価を行い，自身の課題と目標を同時に理解できるよう取り組んでいる。
3.乳児保育における保育環境イラスト集の作成と手作り玩具展覧会実施	2015年～2019年	「乳児保育」において、保育実習との科目間連携として、実習時の保育室レイアウト（環境構成）をイラスト作成し、環境構成の意図を解説する課題を行なっている。グループでの発表後は、全学生の保育環境イラストをPDF化し、学生と共有することで、将来保育者になった際の環境構成手がかりになるよう役立てている。また、同じく保育実習との科目間連携として、保育現場で実際にみてよかった玩具等を、実際に自身で手作りし、その実物を学生間で見合う玩具展覧会を実施し、乳児保育における玩具制作の実体験を保障した。
2 作成した教科書、教材		
1.キャリアアップ研修テキスト「幼児教育分野」	2017年10月	株式会社S.S.Mが担当する保育士等キャリアアップ研修「幼児教育分野」における教科書。キャリアアップ研修で必要な「①幼児教育の意義」、「②幼児教育の環境」 「③幼児の発達に応じた保育内容」「④幼児教育の指導計画、記録及び評価」「⑤小学校との接続」の5分野について解説した。（全35頁担当）
2.初等応用実習－地域社会と幼児の実態に応じた教育実習－	2015年3月	兵庫教育大学における幼稚園教育実習（実地教育Ⅳ）を行う学生を対象とした実習手引きである。「第3章3. 幼稚園における特色ある実践」「第4章1. 保護者への対応と支援」を担当した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.小学校教諭専修免許状	2011年3月31日	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2.幼稚園教諭専修免許状	2011年3月31日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.令和3年度保育士等キャリアアップ研修（多可町）講師	2021年8月21日	保育士等キャリアアップ研修講師として「乳児保育分野」の研修を担当した。
2.令和3年度保育士等キャリアアップ研修（西脇市）講師	2021年5月15日	保育士等キャリアアップ研修講師として「乳児保育分野」の研修を担当した。
3.令和2年度保育士等キャリアアップ研修（兵庫県保育協会）講師	2020年11月2日	保育士等キャリアアップ研修講師として「乳児保育分野」の研修を担当した。
4.宝塚市保育士研修会 講師	2020年10月12日	宝塚市内の公私立保育士、保育教諭を対象「子どもの体と心を育てる保育」をテーマに子どもの姿勢、手指等の発達と保育実践について講演を行なった。
5.令和2年度幼稚園幼稚園・保育所園内研修会研修会講師	2020年4月～2021年3月	保育の園内研修会講師として、社会福祉法人樫の木会かしの木保育園及び駅前かしの木保育園（年間8回）、宝塚市立西山幼稚園（11月）宝塚市立末成幼稚園（9月）で保育の指導助言を行なった。 また、保育者向け講演会講師として、宝塚市立安倉中保育所（1月）、宝塚市立末成幼稚園（8月）にて子どもの発育発達に関する講演会を行なった。
6.平成31年度保育士等キャリアアップ研修研修（兵庫県保育協会）講師	2019年11月27日	保育士等キャリアアップ研修講師として「乳児保育分野」の研修を担当した。
7.平成31年度保育士等キャリアアップ研修（三田市）講師	2019年10月27日	保育士等キャリアアップ研修会講師として「乳児保育分野」の研修を担当した。
8.平成31年度保育士等キャリアアップ研修（太子町保育協会）講師	2019年9月14日	保育士等キャリアアップ研修講師として「乳児保育分野」の研修を担当した。
9.平成31年度尼崎市地域型保育事業所現人研修 講師	2019年9月12日	尼崎市内の小規模保育所保育者を対象に「乳児保育と子どもの発達」をテーマに講演会を行なった。
10.平成31年度保育士等保育士等キャリアアップ研修（尼崎市法人保育園会）講師	2019年9月11日	保育士等キャリアアプ研修講師として「乳児保育分野」の研修を担当した。
11.平成31年度西宮市子育て総合センター「つながり」研修 講師	2019年7月22日	西宮市内保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭を対象に「子どもの発育発達と運動遊び」をテーマに講演を行なった。
12.平成31年度保育士等キャリアアップ研修（尼崎市法人園会）講師	2019年6月26日	保育士等キャリアアップ研修講師として「幼児教育分野」の研修を担当した。
13.平成31年度 山口県保育大会分科会講師	2019年6月8日	山口県保育協会が開催する第49回山口県保育大会において、県内の保育者を対象に、第2分科会講師として「4年間の継続調査からみた子どもの実態に基づいた支援」をテーマに講演を行なった。
14.平成31年度幼稚園・保育所園内研修会講師	2019年4月～2020年3月	保育の園内研修会講師として、社会福祉法人樫の木会かしの木保育園及び駅前かしの木保育園（年間8回）、社会福祉法人都台福祉会都台こども園（5月）、西宮市公立幼稚園健康部会保育研究会（12月）において保育の指導助言を行なった。 また保育者向け講演会講師として、社会福祉法人阪神共同福祉会（11月）において「子どもの発育発達と保育」をテーマにした講演会を行なった。
15.平成31年度保育園保護者向け講演会 講師	2019年4月～2020年3月	保育園保護者向け講演会講師として、学校法人和弘学園明舞幼稚園（6月）、社会福祉法人樫の木会（10月、12月）、社会福祉法人おさなご福祉会おさなご保育園（2月）において、乳幼児期の発育発達や生活のあり方に関する講演会を行なった。また、明石市立谷八木幼稚園において親子体操講師を担当した。
16.母子衛生研究会 育児セミナー講師	2019年～現在に至る	母子衛生研究会が実施するプレママ・パパ対象育児セミナーにおいて、妊娠期間、出産直後の生活や子どもの発達について、年間2回（6月~7月、1月～2月）講演会を行なっている。主に尼崎市の会場を担当すると共に、令和2年度はオンラインによる全国講演会を担当した。
17.平成30年度西宮市子育て総合センター専門課題研修	2018年10月25日	西宮市内の幼稚園、保育所、小学校、特別支援学校の

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
講師		教員、保育者を対象に、「幼児期の運動遊と児童期の生活や学習のつながり」をテーマに講演を行なった。
18.平成30年度草津市保育研修会 講師	2018年10月15日	草津市内保育士、幼稚園教諭を対象に「子どもの発育発達と領域健康」をテーマに講演を行なった。
19.平成30年度保育士等キャリアアップ研修研修会講師（太子町保育協会）	2018年8月18日	保育士等キャリアアップ研修講師として「乳児保育分野」の研修を担当した。
20.平成30年度保育士等キャリアアップ研修 講師（尼崎市法人園会）	2018年5月30日	保育士等キャリアアップ研修講師として「乳児保育分野」の研修を担当した。
21.平成30年度幼稚園・保育所園内研修会 講師	2018年4月～2019年3月	保育の園内研修会講師として、宝塚市立宝塚幼稚園（5月及び9月）、宝塚市私立西谷こども園（10月、12月）、西宮市公立幼稚園健康部会保育研究会（11月）において保育の指導助言を行なった。 また保育者向け講演会講師として、宝塚市立丸橋幼稚園（8月）、社会福祉法人樫の木会（12月）、社会福祉法人都台福祉会都台こども園（1月）、社会福祉法人双葉保育園（2月）において「子どもの発育発達と保育」をテーマにした講演会を行なった。
22.平成30年度保護者向け講演会 講師	2018年4月2019年3月	保育園保護者向け講演会講師として、伊丹市立こうのいけ幼稚園（5月）、伊丹市立せつよう幼稚園（5月及び1月）、川西共同保育所（11月）、社会福祉法人都台福祉会都台こども園（2月）において、乳幼児期の発育発達や生活のあり方に関する講演会を行なった。
23.平成29年度伊丹市幼児教育研修会 講師	2017年12月21日	伊丹市内の幼稚園、保育所の保育者を対象に「乳幼児期の姿勢・動作の課題と保育で保障したい経験」をテーマに講演を行なった。
24.第8回子ども・子育て支援全国研究大会2017in山口 講師	2017年10月27日	子ども・子育て支援全国研究大会における分科会講師として、「乳幼児期の生活・遊び調査と発育発達の関係」について講演を行なった。
25.平成29年度伊丹市総合教育センター幼児教育研修 講師	2017年8月7日	伊丹市内の幼稚園、保育所、小学校の教員、保育者を対象に、「幼児期から児童期の発育発達と運動遊び」をテーマに講演を行なった。
26.平成29年度尼崎市法人園会研修 講師	2017年7月24日	尼崎市内の私立保育園保育士を対象に「乳幼児期の発育発達とその課題」をテーマに講演を行なった。
27.平成29年度保護者向け講演会後援会講師	2017年4月～2018年3月	幼稚園、保育園保護者向け講演会講師として、伊丹市立南幼稚園（6月）、三田市立三田幼稚園（10月）、明石市立谷八木幼稚園（11月）において、乳幼児期の発育発達や生活のあり方に関する講演会を行なった。
28.平成29年度幼稚園・保育所園内研修会 講師	2017年4月～2018年3月	保育の園内研修会講師として、宝塚市立西谷こども園（6月、10月、2月）において保育の指導助言を行なった。
29.西宮市 育児セミナー講師	2016年～現在に至る	西宮市が兵庫県健康財団と実施するプレママ・パパ対象育児セミナーにおいて、妊娠期間、出産直後の生活や子どもの発達について、年間4回（6月、9月、12月、3月）講演会を行なっている。
4 その他		
1.日本幼少児健康教育学会濱田精一賞	2017年8月27日	対象研究発表「幼児期における手内操作スキルと遊び状況との関連」日本幼少児健康教育学会第35回大会春季世田谷大会発表
2.日本幼少児健康教育学会　中永征太郎賞	2014年9月14日	対象論文「活動的な遊びにおける親の遊び態度と子どもの遊び状況との関連性」『幼少児健康教育学研究』第20巻第1号

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.保育者をめざすあなたへ 子どもと健康第2版		2019年4月5日	株式会社みらい	2014年発行した同名タイトルから、保育所保育指針等の改定や最新の研究結果を反映させるため、内容を大幅に改訂した。具体的には「第2章発育と発達」の姿勢・運動系の発達、神経系の発達、「第3

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				章子どもを取り巻く環境の現状と健康課題」に姿勢やハンドスキルの発達等について最新のデータをもとに大幅加筆すると共に、「第4章保育における領域健康」では最新の指針、教育要領の解説を行なった。また、「第10章運動遊びの計画と評価」を新たに設け、養成過程における模擬保育の留意点や運動遊び指導案の作成方法について解説した。 （担当頁：P.24-P.61、P.154-P.161） （共著者：勝木洋子、日坂歩都恵、大和晴行、伊藤華野、井上裕子、大森宏一、小野寺朝彦、カルマール良子、倉真知子、今野賛、阪江豪、高畑芳美、抱江賢治、谷本月子、廣陽子）
2.MINERVAはじめて学ぶ保育　保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園実習	共	2018年3月30日	ミネルヴァ書房	保育者養成における各種実習の事前指導、事後指導向けの教科書。そのうち「レッスン1 実習とは（p.2~p.15）」「レッスン10 指導実習と実習指導案の作成（p.118~p.133）」、「レッスン11 実習指導案の書き方の実際（p.134~p.147）」を担当した。「レッスン1 実習とは」では、実習の意義や心構え、必要な手続きや事前訪問時の留意点等を解説した。「レッスン10 指導実習と実習指導案の作成」では指導案作成の意義や各項目の書き方やその留意点を解説した。「レッスン11 実習指導案の書き方の実際」では、様々な活動の指導案を取り上げ、作成時のポイントについて解説した。 （担当頁：P.2~P.15、P.118~P.133、P.134~P.147） （共著者：亀山秀郎、井上裕子、中重直俊、野口知英代、椋田善之、大和晴行）
3.兵教大発まあるく子育て	共	2017年12月	神戸新聞総合出版センター	保護者向けに子育てや子どもの発達、保育に関する各種テーマについて神戸新聞で連載執筆した「まあるく子育て」を書籍化したもの。 「子どもの生活リズム」「親子の遊び」「睡眠環境」「運動会」のテーマを担当した。 （担当頁：P.10-P.11、P.18-19、P.28、P.48、P.62-P.63） （共著者：名須川知子、足立正、飯野祐樹、石野秀明、磯野久美子、遠藤裕乃、加納史章、岸本美保子、白石肇、鈴木正敏、高畑芳美、永田夏来、橋川喜美代、平野麻衣子、大和晴行、横川和章、淀澤勝治）
4.保育者論　-子どものかたわらに-	共	2017年9月20日	株式会社みらい	保育者志望学生向けに、保育職の概要や、保育者の役割、専門性について解説したテキストである。そのうち「第10章第3節・4節」の執筆を担当し、保育者の職能形成における研修や研究の重要性、今後の保育者のキャリアパスについて解説すると共に、保育集団としての苦情解決方法についても解説を行った。 （担当頁：160-167） （共著者：小川圭子，柏まり，川村高弘，栗岡あけみ，久米裕紀子，鎮朋子，永井毅，中重直俊，腹巻真須美，日坂歩都恵，二見素雅子，松本千幸，大和晴行，和田真由美）
5.幼少期の運動遊び指導入門－元気っ子を育てる運動遊び－	共	2015年5月25日	創文企画	乳幼児期の発育発達の特徴の解説と共に、運動遊び実践例を挙げながら、保育者としての実践上の配慮事項を解説した運動遊びの指導書である。その中の、第2章「1.身近なもので遊んじゃお」で主にすぐ手に入る生活物を活用した遊びの保育展開例、保育者の配慮事項を解説すると共に、第2章「2.移動遊具で遊んじゃお」では、跳び箱やマットなどの保育現場でも指導頻度の高い移動遊具を取り上げ、保育展開例、保育者の配慮事項を解説した。 （担当頁：P.42-54，P.55-67） （共著者：坂口正治，嶋崎博嗣，大和晴行， 米野吉則，北尾岳夫）
6.保育者をめざすあなたへ 子どもと健康	共	2014年4月	株式会社みらい	保育者志望学生向けに子どもの健康や発育発達について論述したテキストである。その中の，「第2章保育における領域「健康」（P.20-P.32）」において教育要領及び保育指針の解説を行い，「第3章発育と発達（P.39-P.49）」においては,主に神経系の発達と子どもの上肢・下肢の発達について解説し，「第5章子どもを取り巻く環境の現状（P.67-P.73）」では,調査データを用い,子どもの生活・遊び状況の現状と課題について解説した。 （担当頁：P.20-P.32，P.39-P.49，P.67-P.73） （共著者：勝木洋子，倉真智子，日坂歩都恵，

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
7.新・保育内容シリーズ 第1巻「健康」	共	2010年5月	一藝社	大和晴行，他13名） 主に保育内容健康に焦点を当て，保育の基礎理論と実践について論述した解説書である。その中の，「第3章心身の健康に関する領域「健康」の位置づけ」を担当した。保育所保育指針の内容を取り上げ，保育の目的や健康領域のねらいや内容について具体的な例を挙げながら解説した。 （担当頁：P.41-P.54） （共著者：谷田貝公明，嶋崎博嗣，高橋弥生， 大和晴行，他12名）
2 学位論文				
3 学術論文				
1.はじめての保育実習を控えた学生の不安と期待に関する研究（査読付き）	共	2021年3月	教育学研究論集 第16号 （P.18-P.26）	本研究は、はじめての保育実習に対する学生の不安と期待を自由記述をもとに明らかにすると共に、新型コロナウイルスの影響に伴い導入された「遠隔授業」の実習指導における効果と課題を検討することを目的とした。結果、学生は実習記録や責任実習等の実習に必要なスキルに加え、「自分への不安要素」も感じており、実習指導時のメンタルトレーニングの必要性が示唆された。期待に関しては学びだけでなく、「就職の決定」を期待するものも一定数いることが確認され、遠隔授業の印象では「繰り返し学ぶことができる」「自分のペースで学ぶことができる」など、オンデマンド型の授業は内容の理解度が促進されることに意義を感じている様子が確認された。 (佐野友 恵・大和晴行・鶴宏史・西本望・宇野里砂・小尾麻希子・中井光 司・久米裕紀子・大槻伸子・白井三千代)
2.幼児期の座位姿勢と生活状況・遊び状況との関連性（査読付き）	共	2020年3月	教育学研究論集 第15巻 （P.28-P.35）	本研究は，幼児期における座位姿勢の現状を明らかにすると共に，幼児期の座位姿勢に影響を及ぼす生活状況・遊び状況の関連要因を検討することを目的として行なった。 調査は2014 年から2016 年にかけて実施し，1 歳児クラスから5 歳児クラスの幼児を対象に，クラス担任保育者による座位姿勢評定，保護者アンケートによる家庭での生活状況・遊び状況調査を行なった。 結果，保育者の感じる座位姿勢の崩れは，1 歳児クラスからすでに2 割程度みられると共に，その後の2 年間も継続している状況が確認された。また，幼児期の座位姿勢に関連する要因として，身体活動や能動的な座位姿勢をとる制作遊びなどの遊びに関連性が認められた。 （共著者：大和晴行、阪江豪、米野吉則、廣陽子、村上史子）
3.保育所児の家庭での遊びと運動能力の関連性（査読付き）	共	2020年3月	日本幼少児健康教育学会誌健康教育学会誌 第6巻1号 （P.49-P.59）	保育所に通う幼児とその保護者に対して、家庭での遊び内容とその頻度についての質問紙調査を実施し、保育園児の講演後の遊びの実態と運動能力との関連性の検討を行なった。 結果、室内で行える遊びが多く、保育所児の在園時間の長さから、帰宅後は戸外で遊ぶ時間は確保できないことが示唆された。家庭における遊び内容の因子分析を行った結果、8因子が抽出され、因子によって年齢差や性差が認められた。3歳では、手指を使った遊びや運動がそれに関連する運動能力と関連し、よく手指を使用する自然の中で遊美の重要性が確認されると共に、4歳以降では活動量が少ない遊び因子と体力・運動能力との間に負の相関が確認され、保育現場において家庭ではできない戸外で身体を活発に動かす遊びを3歳頃から積極的に実施する必要性が示唆された。 （共著者：阪江豪、大和晴行、米野吉則、廣陽子、村上史子）
4.活動的な遊びにおける親の遊び態度と子どもの遊び状況との関連性（査読付き）	単	2014年3月	幼少児健康教育研究 第20巻第1号 （P.13-P.22）	乳幼児との活動的な遊びにおける親の遊び態度尺度を作成し,子どもの遊び状況や活動性との関連を検討した。結果,親の遊び態度として「遊びへの積極的関与と共有」及び「遊びの保障と発展的関与」を下位尺度とする2因子構造が確認された。こうした親の遊び態度は0歳など低年齢であるほど高くなるなどの変容が確認されると共に,親の遊び態度が0歳児以降ほぼ全ての年齢で,多様な遊び経験の豊富さや子どもの活動性の高さと関連していることが確認された。
5.幼児が正しい箸の使	共	2012年6月	幼少児健康教育研	5歳児を対象に正しい箸の使い方の獲得を目標とした食育実践を行っ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
い方を習得することをねらいとした食育実践に関する研究－家庭での保護者の教授を促す実践の開発と効果の検討－（査読付き）			究 第18巻第1号 （P.19-P.27）	た。保護者が教授するためのチェックシートや歌や手遊びの開発,箸を使える遊びコーナーの設置など行い,8か月間の実践を行った。結果，実践後は35.7%の幼児が正しい持ち方を習得し，全国的な大規模調査に比べ有意に高い習得率につながった。課題として,さらなる習得率の向上のためには,幼児の手指の巧緻性そのものの向上に取り組む必要性を示唆した。 （共著者：廣陽子,大和晴行）
6.保育者志望学生の生活技術の現状と獲得過程に関する研究	単	2011年3月	幼年児童教育研究 第23号 （兵庫教育大学幼年教育コース研究紀要） （P.31-P.39）	保育者志望学生を対象とした生活技術獲得過程の調査から，正しい技術を身に付ける上で留意すべき点を検討した。結果，養育者以外に保育者の関与が技術レベルの高低に影響を及ぼしていること，教授方法では，大人はモデル機能は果たすものの，型付けやコツの伝授は行われていないことが確認された。結果を踏まえ，正しい生活技術を身に付ける上で留意すべき点として,教授人物の増加,型付け・コツの伝授の実施,保育者の技術レベル向上の3点を挙げた。
7.体育関連科目受講学生の体力と運動習慣に関する研究	共	2010年3月	湊川短期大学紀要 第46集（P.61-P.69）	保育者志望学生の体力状況，運動習慣に関する調査を行い，体育関連科目の基礎資料を得ることを目的とした。結果，女子学生の筋持久力の値がとりわけ低く，将来，保育現場での外遊びや低年齢児保育の中で怪我や疲労が蓄積しやすくなる可能性が示唆された。また，学生の多くは体力の重要性は認識しつつも，時間的余裕のなさから運動習慣が確立できないでいる状況が確認された。 （共著者：大和晴行，矢野正，倉真智子）
8.保育者志望学生の生活技能の現状と保育者養成の課題 －実技調査及び学生の振り返り記憶からの考察－	単	2009年3月	幼年児童教育研究 第21号 （兵庫教育大学幼年教育コース研究紀要） （P.61-P.71）	保育者志望学生の生活技術レベルの現状と技術獲得過程を検討した。結果，保育者志望学生は箸，鉛筆等の技術レベルが自立域に達しておらず，保育現場で教授困難な状況であった。また技術レベルと自己認識に隔たりがあり，認識と実際の技術レベルとのギャップを埋める必要性を示唆した。技術獲得過程の検討から，正しい生活技術獲得には保育現場が動作学習できる場として重要であることが示唆された。
9.幼児の生活技術の現状と背景問題－兵庫県下H幼稚園児に対する実態調査から－（査読付き）	共	2008年3月	幼少児健康教育研究 第14巻第1号 （P.2-P.11）	幼児に箸，鉛筆，雑巾等の使い方に関する実技調査及び観察調査を行い，生活技術レベルの現状把握と共に、幼児の発達、生活上の課題を検討した。結果，幼児の生活技術の水準は全体的に低いまま移行していること，また，直接体験不足に伴う身体学習機会の減少が動きのぎこちなさにつながっており，特に，清潔の早期自立傾向が、身体感覚の違和感や拒否感に繋がっている可能性を示唆した。 （共著者：大和晴行，嶋崎博嗣）
10.男性保育者の独自性に関する探索的研究－幼児のインタビュー調査による両性保育者のイメージ比較－（査読付き）	共	2007年2月	運動・健康教育研究 第15巻第1号 （P.12-P.19）	幼児が抱く女性保育者，男性保育者のイメージに差異があるか，幼児へのインタビュー調査から比較検討した。結果，男性保育者は技術的援助の印象が多く語られ,女性保育者は情緒的援助の印象が多く語られた。また,保育者の性別に関係なく遊びの共有場面の印象が多く語られた。保育者の無意識的な行動の偏りや，幼児自身の性役割観が女性保育者，男性保育者のイメージの差異に影響している可能性が示唆された。現段階での男性保育者の保育現場参入の意義についても検討し，性役割観が強い男児に対して大人との接触保障や感情体験の多様性を挙げた。 （共著者：大和晴行，嶋崎博嗣）
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.乳児のシャフリング生起に影響を及ぼす環境要因の検討	共	2021年9月4日	日本幼少児健康教育学会第40回記念大会 【秋季：岡山大会】 抄録集P.24-P.25	本研究は乳児の座位獲得までの養育環境や保護者の養育態度が、シャフリング（いざり這い）の生起に及ぼす影響について検討することを目的として、保育園0歳児及び1歳児クラスの保護者260名へ質問紙調査を実施した。 結果、シャフリングの生起と保護者の座位獲得過程の認識との間に関連が認められ、シャフリング生起した児の保護者は、座位獲得の発達時期を寝返り後と認識している割合が多く、一般的な座位獲得過程よりも、早期に受動的な座位姿勢を経験することで、シャフリングの生起に影響する可能性が示唆された。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				（共同研究につき担当部分の抽出不可能） （共著者：カルマール良子、大和晴行）
2.『幼児を対象とした多様性理解のための教育ツール』を活用した保育実践に対する保育者養成学生の有効性評価	共	2021年3月	日本保育者養成教育学会 第5回研究大会	保育者養成校の学生に対して『幼児を対象とした多様性理解のための教育ツール』を用いた保育実践を概説し、学生評価による教材の有効性について検証するとともに、学生の障害理解教育に対する意識への影響について検討することを目的とした。保育者養成校4校の学生に授業を展開し、事後に質問し調査を実施した。結果、障害理解への関心について9割以上が関心の高まりを示した。加えて、教材ツールの有効性について「身体制限を伴う運動遊びの展開」及び、「映像教材の有効性」についても、ほぼ否定的見解は確認されず、特に身体制限を伴う運動遊びの有効性について高い肯定的評価がなされた。 （共同研究につき担当部分の抽出不可能） （共著者：嶋崎博嗣、北尾岳夫、大和晴行、小島栄希）
3.乳児のいざり這い動作に関与する要因の検討―四つ這い動作との関連に注目して―	共	2019年3月	日本幼少児健康教育学会第37回大会 【春季：青山大会】 発表抄録集 P.58-P.59	本研究は特異な発達パターンとされているいざり這いを獲得することが、そのごの四つ這い獲得に及ぼす影響について検討することを目的とした。保育園0歳児及び1歳児クラスの保護者へ質問紙調査を実施した。 結果、調査協力者の13.9%がいざり這いを獲得しており、いざり這い獲得児の約半数で四つ這いの出現は認めらなかった。四つ這い獲得の有無といざり這い獲得の有無に有意な関連性が認められ、いざり這い獲得児は四つ這いをしない傾向が確認された。いざり這いが生じる過程や、その後の運動発達パターンの実態について今後検討するしていくことが課題として挙げられた。 （共同研究につき担当部分の抽出不可能） （共著者：カルマール良子、大和晴行）
4.学生の主体的な学びとなる実習記録のあり方(II) -「流れ型記録」様式と「子ども理解を重視した記録」様式に対する保育実習I(保育所)後の学生評価	共	2018年3月	日本保育者養成教育学会 第2回研究大会	本研究は、保育実習I(保育所)で「子ども理解を重視した記録」様式を使用した学生と「流れ型記録」様式を使用した学生とで、記録の使用感や学びに対する評価を比較検討することを通し、作成した「子ども理解を重視した記録」様式の実際的な効果や改善点について検討することを目的とした。保育実習I(保育所)終了後 1ヶ月以内に保育者養成校3校にて質問し調査を実施した。 結果、流れ型記録様式は、調査した6項目の全てで有意に負担感が高いことが示され、記録作成実時間も1時間以上子ども理解重視型より長いことが確認された。学びの面では、子ども理解重視型記録は、子ども理解や環境構成の学びに寄与することが示唆された。 （共同研究につき担当部分の抽出不可能） （共著者：大和晴行、柘植誠子、高市勢津子）
5.幼児における立位姿勢時の姿勢アライメントの経時変化	共	2018年2月5日	日本幼少児健康教育学会第36回大会 【春季：朝霞大会】 発表抄録集 P.34-P.35	幼児期における姿勢の分類化とその変化を縦断的に検討を行った。調査は保育所に通う3～5歳児84名を対象とし、動画撮影から静止画像を切り取り、姿勢アライメント４項目の角度を算出し検討を行った。結果、3歳から4歳にかけて姿勢の経時変化が認められる一方、4歳から5歳にかけては経時変化が少なく、良い姿勢群も悪い姿勢群も4歳時点の姿勢がそのまま維持される傾向が認められた。 （共同研究につき担当部分の抽出不可能） （共著者：米野吉則、廣陽子、大和晴行）
6.幼児における立位姿勢の類型化	共	2017年3月	日本幼少児健康教育学会第35回大会 【春季：世田谷大会】 発表抄録集 P.22-P.23	3歳児から5歳児の幼児を対象に、力学的平衡に視点を置き、幼児の立位姿勢の類型化を行い、その特徴を検討した。姿勢アライメント4項目とバランス指標5項目からクラスター分析を行なった結果、幼児の姿勢は「理想型」「出腹出尻型」「骨盤前傾型」「頭部前傾型」「巻き肩型」の5分類に類型化でき、幼児期においても顕著な腰椎の湾曲、頭部前方移動、肩甲骨の突出などの傾向を有する幼児が一定数以上いることなどが確認された。 （共同研究につき担当部分の抽出不可能） （共著者：米野吉則、大和晴行、廣陽子、阪江豪、村上史子）
7.幼児期における手内操作スキルと遊び経験との関連	共	2017年3月	日本幼少児健康教育学会第35回大会 【春季：世田谷大	保育園に通う2歳児から5歳児の幼児を対象に、手指の器用さの一つである手内操作スキルのレベルと遊び状況との関連性を検討した研究。結果、2歳から3歳にかけては構成遊びや様々な道具操作の経験が基本的な手指機能の向上に影響していることが確認された。ま

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
			会】 発表抄録集 P.24-P.25	た、5歳ごろからは、自然物など指先の微細なコントロールが必要とされる操作経験の保障が、より複雑なハンドスキルの獲得に影響していることが確認された。 （共同研究につき担当部分の抽出不可能） （共著者：大和晴行、廣陽子、阪江豪、米野吉則、村上史子）
8.子どもの遊びの特徴と運動能力との関係	共	2015年9月	日本幼少児健康教育学会第34回大会 【秋季：赤穂大会】 発表抄録集 P.78-P.79	保育園に通う3歳児から5歳児の降園後の遊びおよび休日の遊び状況の特徴を検討すると共に、運動能力との関係を検討した。結果、3歳から5歳のそれぞれの段階において、戸外や自然物を使用する活動的な遊びの頻度が高い幼児ほどボール投げに代表される、身体の連動性や協応性が求められる運動能力が高い傾向にあることが確認された。 （共同研究につき担当部分の抽出不可能） （共著者：阪江豪、大和晴行）
9.幼児期における手内操作スキルと保育士評定による手指の不器用さとの関連	共	2015年9月	日本幼少児健康教育学会第34回大会 【秋季：赤穂大会】 発表抄録集 P.80-P.81	保育園に通う2歳から5歳の幼児を対象に、手内操作スキルの実技調査を行い、スキルレベルの実態把握を行うと共に、スキルレベルと保育士が保育中に実感している手指の不器用さとの関連性を検討した。結果、各指の独立運動を必要としないスキルは2歳児でも多くが獲得している一方、拇指、示指、中指の3指の指節間関節のコントロールを必要とし、指の屈曲と伸展の交互運動が必要なスキルは獲得状況が5歳児でも低いことが確認された。また、各種スキルの低さと、保育活動中の手指の不器用さとの間には2歳から5歳それぞれの段階で関連性が認められた。 （共同研究につき担当部分の抽出不可能） （共著者：大和晴行、廣陽子）
10.保育者が実感している0歳から6歳の子どもの動きのおかしさに関する調査研究	単	2014年5月	日本保育学会第67回大会 発表要旨集 P.870	保育士が実感している乳幼児期の姿勢制御，運動動作の課題について実態把握を行い、子どもの運動発達上の課題についての基礎的資料を得ることを目的とした。事前に作成したチェックリストに従い，0歳児から6歳児569名について担任保育士により動きのおかしさを評価してもらった結果,0歳児から継続的に実感されている課題として姿勢保持、手指の巧緻性、自己制御に関連する課題が確認された。
11.保育者養成における生活技術レベル向上を目指した授業実践に関する研究－学生同士の教え合いが技術レベルや教授意欲に及ぼす影響－	単	2011年9月	日本幼少児健康教育学会 第30回大会 【秋季：大阪大会】 発表抄録集 P.26-P.27	保育者志望学生に対し箸の持ち方，鉛筆の持ち方，雑巾の絞り方といった生活技術を身に付けるため，学生の「教える－教えられる」関係を軸としたグループワークを実施した。授業内で10分間，先生役の学生が子ども役の学生に「型付け」を中心に教える実践を計3回実施した。実践後， 約7割の学生が正しいやり方を身に付けると共に，実践後1カ月を経過してもその状況が継続しており，実践の効果の一定期間の定着が確認された。 （共著者）大和晴行,廣陽子
12.保育者志望学生の生活技術の現状－実技レベルと生活技術への認識－	単	2010年5月	日本保育学会 第63回大会 発表要旨集 P.680	保育者志望学生に対し，箸を使う，鉛筆を使う，雑巾を絞る，のこぎりで切る，花結びするの5項目について実技調査を行い，実技レベルとそれぞれの技術に対する学生の重要性評価との関連性を検討した。結果，技術レベルに関わらず，学生の各生活技術に対する重要性評価は高いことが示された。しかし，のこぎりで切るのみ，技術レベルに関わらず重要性評価が低く，幼児期における刃物使用に対し積極的意義を感じていない学生が多いことが示された。
13.保育者志望学生の生活技術の現状と獲得過程に関する研究	単	2010年3月	日本幼少児健康教育学会 第28回大会 【春季：朝霞大会】 発表抄録集 P.78-P.79	保育者志望学生を対象に，生活技術実技レベルの差異により技術獲得の過程が異なるか検討した。結果，雑巾の絞り方など一部の生活技術において，間違ったやり方をしている学生ほど保育者に教えられた経験があることが示されるなど，保育者が生活技術の獲得の際に大きな影響を及ぼしている可能性が示唆された。
14.食育実践における幼児及び保護者の食行動の変化Ⅱ －質問紙調査による実践効果の推定－	共	2009年5月	日本保育学会 第62回大会 発表論文集 P.549	食材を全て用意するところからはじまる，食を巡る一連の過程を重視したみそ汁作り活動が幼児の食行動に及ぼす影響を検討した。アンケート調査の結果，幼児は食材調達の体験などから食材への興味関心が高まると共に，調理に対する興味関心も有意に高まることが示された。また，家庭内の保護者にも影響があり，実践前に比べ幼児の手伝い行動を許容する保護者が有意に増加したことが示され

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				た。降園前の保護者による試食タイムがわが子の育ちを感じるきっかけとなり，幼児の調理行動に対する許容範囲が広がったと考えられた。 （共同研究につき担当部分の抽出不可能） （共著者：廣陽子，大和晴行）
15.保育者志望学生の生活技術の現状と保育者養成の課題－実技調査及び振り返り記憶からの考察－	共	2008年9月	日本幼少児健康教育学会 第27回大会 【秋季：大阪大会】 発表抄録 P.22-P.23	保育者志望学生の生活技術レベルの現状把握と，技術獲得過程を検討した。結果，保育者志望学生は箸，鉛筆，雑巾等の技術レベルが自立域に達しておらず，将来，保育現場での教授は困難な状況であることが示された。また，質問紙調査から，学生が過去に教授された時期や教授してくれた人物について検討を加えたところ，比較的技術レベルが高い生活技術には保育者や小学校以上の教員が教授にかかわっていることが明らかとなった。正しい生活技術獲得には，保育現場が動作学習できる場として重要な役割を果たしている可能性を示唆した。 （共同研究につき担当部分の抽出不可能） （共著者：大和晴行，嶋崎博嗣）
16.幼児キャンプ活動とストレス反応－簡易ストレス測定器を用いたアミラーゼ活性の変動に着目して－	共	2008年9月	日本幼少児健康教育学会 第27回大会 【秋季：大阪大会】 発表抄録 P.28-P.29	自然体験活動が身体に及ぼす影響側面を検討するため，アミラーゼ活性の測定を実施した。結果，3泊4日のキャンプにおいて1～2日目は比較的高い測定値を示したが，3日目以降はそれまでと比べ有意に測定値は低下した。ストレス低下の要因として「キャンプ生活への適応」やプログラムの内容を勘案し「克服，成功体験の達成感，満足感による快感情」などの心理的変化により,ストレス減退につながった可能性を示唆した。 （共同研究につき担当部分の抽出不可能） （共著者：谷口博也，嶋崎博嗣，大和晴行， 廣陽子）
17.食育実践による幼児及び保護者の食行動の変化Ⅰ－実践仮説と概要－	共	2008年5月	日本保育学会 第61回大会 発表抄録集　P.577	これまでに行われてきた食育実践の先行研究の検討から，これまでの食育実践の課題を抽出し，新たな食育実践モデルを考案することを目的とした研究。結果，これまでの食育実践の課題として以下の点が明らかになった。第1に質問紙，対照園を設けるなど客観的手法での評価が行われてこなかったこと，第2に園から幼児，保護者といった単一方向モデルが多く，園－幼児－保護者の3者の相互作用を視野に入れ実践モデルが生成されてきていないことが課題として浮上した。以上の課題を踏まえ，本研究では今後必要と思われる食育実践モデルについての提案を行った。 （共同研究につき担当部分の抽出不可能） （共著者：廣陽子，大和晴行，嶋崎博嗣）
18.幼児の自然とのかかわりに関する保育実践の効果と課題	共	2008年2月	日本幼少児健康教育学会 第26回大会 【春季：野田大会】 発表抄録集 P.46-P.47	幼児と自然とのかかわりを重視した保育実践が，幼児の育ちに及ぼす影響を保護者に対するアンケート調査から評価した。結果，栽培活動や飼育による実践展開は，年長女児，年少男女児には効果的に働き，自然への興味関心を高めるものの，年長男児の興味関心には反映しなかった。自然に関する保育実践は栽培、飼育といった「自然への養護的かかわり」のみならず，自然とダイナミックに触れ合う活動が重要であり，両者をバランスよく幼児が体験できる工夫が必要であることを示唆した。 （共同研究につき担当部分の抽出不可能） （共著者：大和晴行，嶋崎博嗣，谷口博也 廣陽子，田中敏也）
19.保護者評価による幼児キャンプ参加児の生活行動の変容－事前・事後評価の比較を通して－	共	2007年9月	日本幼少児健康教育学会 第26回大会 【秋季：南大阪大会】 発表抄録集 P.64-P.65	3泊4日の幼児キャンプ体験後の参加幼児の日常生活における変容を質問紙調査から検討した。結果，キャンプが影響を及ぼす幼児の成長側面として，「自己コントロール」「感性」「態度」「自立・挑戦」の4因子構造が確認された。キャンプ前後では「自立・挑戦」因子に有意な差が認められ，幼児期のキャンプ活動が自立心や挑戦心の成長と関連する可能性が示唆された。 （共同研究につき担当部分の抽出不可能） （共著者：谷口博也，嶋崎博嗣，大和晴行， 三宅孝昭，北尾岳夫）
20.幼児の自然体験活動が自律神経機能に及	共	2007年2月	日本幼少児健康教育学会	自然体験活動が幼児の自律神経機能に及ぼす影響を「歩数」及び「体温」の測定から検討した。結果，自然体験活動時の幼児の活動

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
ぼす影響			第25回大会【春季：野田大会】発表抄録集 P.90-P.91	量は、日常生活時に比べ少なくなるにもかかわらず，体温変動幅は有意に増加することが示された。このことから自然という環境やキャンプ特有の生活リズムが幼児の生体に影響を及ぼす可能性を示唆した。（共同研究につき担当部分の抽出不可能）（共著者：谷口博也，大和晴行，米野吉則，嶋崎博嗣）
21.幼児期における両性保育者の存在意義に関する研究－幼児に対するインタビュー調査による両性保育者のイメージ把握を通して－	共	2007年2月	日本幼少児健康教育学会第25回大会【春季：野田大会】発表抄録集 P.86-P.87	幼児に対するインタビュー調査から両性保育者の幼児への影響，及び両性保育者の存在意義を探索的に検討した。結果，男性保育者は身体を用いた活動性が，女性保育者は情緒的援助といったやさしさを伴う表現性が幼児の印象に残りやすいことが示された。結果から，両性保育者の存在意義に触れ，幼児は両性保育者に対して差異を感じているものの，それは決して否定的に捉えられるものではなく，遊びの中で幼児の多様な快の感情体験に繋がっていることを示唆した。（共同研究につき担当部分の抽出不可能）（共著者：大和晴行，米野吉則，谷口博也，嶋崎博嗣）
22.幼児の起床・就寝時刻の規則性と朝の生活状態	共	2006年3月	日本幼少児健康教育学会第24回大会【春季：青山大会】発表抄録集 P.62-P.63	幼児の起床就寝時刻の規則性に焦点を当て，5日間の生活記録から得られる連続データの標準偏差を規則性の指標とし，朝の生活状態との関連を検討した。結果，起床時刻の規則性は自立起床と相関が認められ，就寝時刻の規則性は朝の食欲と相関が認められた。（共同研究につき担当部分の抽出不可能）（共著者：米野吉則，大和晴行，嶋崎博嗣）
23.幼児の起床・就寝の規則性からみた幼児の健康状態	共	2005年9月	日本幼少児健康教育学会第24回大会【秋季：大阪大会】発表抄録集 P.20-P.21	幼児期の睡眠研究はそれまで起床－就寝時刻を平均値で捉えてきたが，本研究は起床－就寝時刻の規則性に着目し心身の健康状態との関連を検討した。結果，起床・就寝時刻の規則性は相互に関連すること，起床時刻の規則性は健康状態と関連することなどが示され，幼児の健康状態を評価する際，規則性という観点が今後有効な分析視点となり得ることを示唆した。（共同研究につき担当部分の抽出不可能）（共著者：米野吉則，大和晴行，嶋崎博嗣）
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.ICTや先端技術の活用などを通じた幼児教育の充実の在り方に関する調査研究（文部科学省委託事業：幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究）	共	2021年3月	「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究」報告書（全39頁）	幼児、保護者、保育者同士を繋ぐICT機器を用いた幼児教育の実践の有効性について、①ICTを用いた労務負担軽減、保育者同士の学習時間と他園の保育者との学び合いの機会の補完、②幼児の学びと成長発達を促すオンラインでの保育実践、③センシング技術を活用した労務ストレスの測定の3点を目的に調査を実施した。そのうち、①ICTを用いた労務負担軽減の効果と課題の検討を担当した。ICT活用による労務負担軽減に取り組む園の保育者を対象に、ICT導入直後と3ヶ月後に質問し調査による縦断的検討を行なった。結果、ICTを活用することで、①情報共有（ヒヤリハット等）、②情報管理（子供の出欠、与薬情報）、③保護者への情報発信、④情報交換、コミュニケーション（会議、研修）、⑤文書作成（指導案作成等）の全ての項目において、7割～9割の教諭が負担の軽減を実感していることが明らかになり、ICT導入の効果が確認された。一方で、ICTに整備状況や通信環境、導入ソフトによっては作業負担感が増大しており、保育者の意見を取り入れた定期的な改善策の検討を行う重要性が示唆された。（担当頁：P.23-P.27）
2.乳歯期園児の口腔・食・体力調査事業報告書	共	2014年3月	一般社団法人食育口腔育成支援センター全38頁	2013年8月から9月にかけ,乳児期からの口腔の劣成長が心身に及ぼす影響について0歳児から6歳児766名の発育発達の状況を検討した報告書である。調査は口腔,姿勢,言葉,体格,体力の5つの側面から行い,その中の「結果報告」を執筆した。0歳児から座位姿勢の悪さ，落ち

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
				着きのなさを呈する子どもが2割強確認され，その要因として生活・遊び状況との関連性の分析から，養育者の遊び態度の消極性や1歳前後の動的姿勢制御を伴う遊びの少なさなどが影響している可能性を示唆した。 （担当頁：P.11-P.21） （共著者：大和晴行，小野大地，北野直子，中嶋名菜，松本直幸）
3.兵庫県内の各自治体における子ども支援・子育て支援に関する実態調査（2011年度兵庫県委託「子育て支 援調査研究事業」報告書）	共	2012年3月	ひょうご地域子育て支援大学間連絡協議会 全99頁	2011年11月に行った兵庫県内50市区町村における子育て支援の実態把握を目的としたアンケート調査,及び自治体へのヒアリング調査をまとめた報告書である。その中の,「ヒアリング調査報告」において，小野市で行ったヒアリング結果から，独自的な取り組みとして，不育症治療助成や市長部局にあるヒューマンライフグループの創立等の経緯と効果について報告した。 （担当頁：P.86-P.91） （共著者）伊藤篤，勝木洋子，田端和彦，森田恵子，野呂千鶴子，吉岡洋子，寺村ゆかの，大和晴行
4.「みんなあつまれ！にんにんキャンプ」活動実績報告書 （文部科学省委託事業：「青少年の意欲を育む体験活動に関する調査研究」）	共	2008年3月	ひょうご幼少児野外教育研究会 全32頁	2009年度に5歳児を対象として，2泊3日のキャンプ活動を9月及び11月の2度に渡り縦断的に実施したキャンプ概要と，キャンプ活動が子どもの育ちに及ぼす影響を検討した報告書である。その中の,「第3章実践効果の推定」において，子どもの描画及び保護者評価による成長側面推定尺度の分析について執筆を行った。結果，描画分析から複数回のキャンプを実施することで快感情を中心とした自由表現から，不快や頑張りを潜り，乗り越えた場面に描画内容が変化すること，また成長側面推定尺度の変容から感性や自立・挑戦的な態度の向上が認められることを報告した。 （担当頁：P.17-P.26） （共著者：嶋崎博嗣，石野秀明，辻俊幸，大和晴行）
６．研究費の取得状況				
1.科学研究費補助金 研究種目： 基盤研究（C）	共	2014年4月～2018年3月		研究課題名：乳幼児期における保育中の動きのおかしさの発達的変化と関連要因に関する縦断的研究 代表：廣陽子，分担：大和晴行
2.科学研究費補助金 研究種目： 若手研究（B）	単	2012年4月～2015年3月		研究課題名：3歳未満児の身体活動を規定する要因の探索と運動発達との関連性に関する調査研究
3.科学研究費補助金 研究種目： 若手研究（研究活動スタート支援）	単	2009年4月～2011年3月		研究課題名：幼児の生活技術獲得を援助できる保育者育成のための総合的調査研究

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2017年9月～現在に至る	尼崎市子ども・子育て審議会委員
2.2013年9月～現在に至る	日本小児保健学会　会員
3.2012年～現在に至る	日本幼少児健康教育学会　常任理事
4.2009年5月～現在に至る	日本乳幼児教育学会　会員
5.2007年4月～現在に至る	日本保育学会　会員
6.2005年4月～現在に至る	日本幼少児健康教育学会　会員